

ストックホルム世界水週間 アジア・太平洋フォーカスセッション

4. ヒンズークシュ・ヒマラヤにおける気候レジリエントな水管理のための地域協働の活用

8月27日(水)9:00 - 10:30 CEST(日本時間 16:00~17:30)会場 Room C1, Level 2/オンライン

セッション概要:

ヒマラヤ・ヒンズークシュ地域(HKH)は「第三の極」とも呼ばれ、氷河融解の加速、水文パターンの変化、そして洪水、干ばつ、氷河湖決壊洪水(GLOF)など極端現象の頻発に直面しており、約20億人の生命と生計を脅かしています。こうした連鎖的かつ気候変動に起因するリスクは、国境を越える流域の水資源安全保障、生物多様性、持続可能な発展を危うくしています。これらの複雑な課題は、いずれか一国だけで解決できるものではありません。

本セッションでは、氷河融解の広範な影響に対処し、その影響を緩和する上で重要な役割を果たす強靱な河川や湿地の機能を強化するため、地域協力とサイエンス・ディプロマシーの強化がどのように貢献できるかを探ります。また、こうした協力が知識やガバナンスのギャップを埋め、共同の科学的理解を促進し、エビデンスに基づく集団的な行動を促すことで、気候変動に強いHKHの実現につながることを検討します。

主な議題テーマ:

- 共同研究、オープンデータの共有、若者や地域コミュニティの積極的な参画を通じて、データと知識のギャップを解消すること。
- ピークウォーター、GLOF、不安定な降水といった重大な脅威への対応を通じて、水管理とレジリエンスを向上させること。
- 地域に根ざした知見と科学的イノベーションを統合し、地域主導の適応策を拡大すること。
- 氷河モニタリング、洪水予測、生態系回復、適応型インフラのための資金を動員すること。

このセッションでは、最新の知見を共有し、新たに生まれつつある地域的な解決策を紹介するとともに、統合的なリスク管理、早期警戒システム、自然共生型解決策(NbS)、包摂的なガバナンスなど、実践的な戦略を推進し、水資源が確保され、気候変動に対して強靱なHKHの実現を目指します。

共催機関:

- ・ APWF
- ・ アジア開発銀行 (ADB)
- ・ アジア災害防止センター (ADPC)
- ・ 国際総合山岳開発センター (ICIMOD)
- ・ 国際水管理研究所 (IWMI)
- ・ IUCN アジア支部

プログラム

9:00- 9:02	セッション紹介 朝山由美子 APWF・日本水フォーラム チーフ・マネージャー
9:02- 9:10	基調講演・背景説明 シャバズ・カーン教授 (APWF 副議長、ユネスコ東アジア地域局所長兼代表)
9:10- 9:30/ 9:30- 10:10	パネルディスカッション 1 - 行動への道筋 (各パネリストからの取り組み紹介) パネルディスカッション 2 - インタラクティブなフォローアップパネル <ul style="list-style-type: none">・ 科学と政策・ 実行と投資 パネリスト <ul style="list-style-type: none">・ アジア開発銀行 (ADB): デ克蘭・F・マギー氏 (気候変動・持続可能な開発首席エコノミスト)・ アジア災害準備センター (ADPC): セナカ・バスナヤケ博士 (気候サービス・プログラム長)・ 国際山岳総合開発センター (ICIMOD): チャンゴン・チャン博士 (気候変動・環境上級専門家、気候・環境リスクユニット長)・ 国際水管理研究所 (IWMI): アロック・シッカ博士 (インド・バングラデシュ国代表、上級研究員)・ 国際自然保護連合 (IUCN) アジア地域事務所: ヴィシュワ・ランジャン・シンハ氏 (南アジア水・湿地担当上級プログラムオフィサー、科学・戦略グループ) <ul style="list-style-type: none">・ オンサイトモデレーター: ファイサル・ムイーン・カマー博士 (ICIMOD、レジリエントな河川流域担当・介入マネージャー)

	<ul style="list-style-type: none"> オンラインモデレーター: シャバズ・カーン教授 Q&A - 参加者との質疑応答
10:10- 10:25	Joint Call to Actions 行動に向けた共同アピール
10:25- 10:30	閉会の辞と今後の展望 シャバズ・カーン教授